

歴史都市大阪の再発見

1. はじめに

よろしく申し上げます。

岩本理事長さんから名が出ました母校の甲陽学院は、私が通っていた頃は甲子園球場の横にあり、今はノボテル甲子園というホテルになっています。うちの父親も卒業生で、小松左京さんのお兄さんや別当薫が同級生。里心がついたら死ぬとか言われますが、別当さんが半世紀ぶりに同窓会に現れたら、すぐ亡くなられました。

その甲陽学院に村上千秋という国語の先生がいらっしやいまして、その息子さんが村上春樹さんです。ノーベル賞の噂が毎秋流れ、9 月頃から中学の後輩である大森一樹映画監督、そして私からも新聞記者がコメントを取っています。

春樹さんのお母さんは船場の商家の出身です。お父さんは古文が専門の先生で、なぜか私のことを可愛がってくれて、のちに村上春樹論を新聞に書いたりすると、丁寧な手紙をいただきました。『大阪人』3 月号に書いたのですが、村上春樹は阪神沿線で育った人で、上田秋成が好きなのです。

村上春樹の幻想文学は、現実から異界や魔界へワープするところが、ちょっと秋成と似ています。

2. 大阪の文人について

この近くの生玉神社にちょこんと座る西鶴のブロンズ像は、私の顔がモデルです。頭を剃った顔なので、遠くから見たら桂枝雀みたいですが、近寄れば私と分かる。なぜ生玉神社に西鶴の像があるかというと、西鶴が 39 歳のとき生玉で矢数俳諧というイベントをして一万句詠んだからです。西鶴は 1693 年に亡くなっていますので、没後 300 年に当たる 1993 年に碑を建てたとき、たまたま私が 39 歳でした。

西鶴や近松に次いで有名な大阪の文人といえば与謝蕪村と上田秋成です。蕪村は毛馬の出身で生地は水没しています。都島区は一時期、蕪村で町おこしをやりました。そういうことを好きな区長さんがいると、限られた予算でも面白いことができる。

私は大阪市の総合計画審議委員を務めたけど、何も実現しない。もっと小さな範囲で、やれるところから 24 区それぞれ面白いことをやったほうがいい。大阪はどこもいいネタがありますから。

今年は住吉大社の 1800 年を住吉区がどう盛り上げるか。宗教がからむので難しいところもありますが、まだ決定的なアイデアは出ていない。

上田秋成ゆかりの地は淀川区加島、香具波志神社のあたりです。JR 東西線が通って便利になりましたが、残念ながら、人は来ていません。

3. 「大阪語ログ」

さきほど岩本さんのご挨拶に、歌舞伎や文楽を皆もっと見ないと、というお話がありました。ファンになるならないは個人の趣味の問題としても、「せめて知ったふりをしよう」と私は言っているんです。全然興味がないような顔はしてほしくない。京都市民なんて京都の文化をかいもく知らないのではないのでしょうか。たとえば 12 月だけ歌舞伎を南座でやる。市民はほとんど見ていないけど、12 月になったら「顔見世どすなあ」と、知っているふりをするだけでも京都のイメージが膨らむ。バカ正

直に「興味ない」とか言わずに。

皆が郷土史家になる必要はない。本物の郷土史家は少しでいい。でも圧倒的多数の人が興味ないというのは困る。そこそこ知ってる、知ったふりができる、そういう議論を歓迎する雰囲気だけでもあるといった厚みが都市格を支えます。

ですから、本当に歴史や文化を知っていなくても、最低このツボを押さえておけば勘所が分かるというマニュアルがほしい。知事や市長が海外に行って挨拶するとき、大阪がどういう街か説明してくれと言われたとき、一番いいところを説明できるマニュアルを作りたいと思って、去年、関西経済同友会で『大阪語ログ』を作成しました。相当部分私書き、サントリーの鳥井信吾副社長が連休を返上して原稿をチェックされた。私はおおざっぱなO型人間なので、ああいうA型の細かい方がついてくれると助かります。あの方は酒を飲めないそうですね。

スピーチに使うマニュアル、スピーチ本として『大阪語ログ』を作ったのは、ひとつにはオリンピック誘致がヒントになりました。大阪でオリンピックができるなどとは思っていませんでしたが、誘致に乗り出してしまった以上、何か後に続くような形にしたいと考えて参加したところ、大阪を紹介するマニュアルが必要だと痛感しました。大阪を全く知らずにIOCの委員たちに判断してもらっても困る。大阪を紹介する本や映像はAPECのときにも作りましたが、さらなる決定版を作りたい。

まず地元の大阪人が日本語で書く。それを英語とフランス語に翻訳する。オリンピックの公用語は英語とフランス語ですから。それで「天下の台所」を”Kitchen of Japan”と翻訳したら、座敷も応接間もないのかとなる。「庶民の街」とか言っても「ただの人の街”A Community of ordinary people”」と訳されたら、偉い人はおらんのか、となる。「ホンネの街」も「本当のことをしゃべる街」では、他の街はウソばかり言っているのか、となる。たぶんに東京を意識し、権力の町に対して、こっちは違うとか言いたかったのでしょうか。

昔は大阪のマーケットが大きかったから関東との対比だけで物語を作れましたが、もう通じません。

ピンと来るのは「オンリーワン」。日本で唯一、世界で唯一、最初に作りましたとか、あるいは一番大きいとか。そういうロコミで広がりやすいネタがいい。大阪は日本で長く二番目に人口の大きい町でしたが横浜に抜かれて三番目になったとか、わざわざ言うことはない。三番目という言葉だけ印象に残しても仕方ない。いらぬことは言うな。嘘をついたらいけませんけど、いいことだけちょっと大きさに言えばいい。

4. 「街は舞台」

これは2005年朝日新聞に連載した、大阪府下版の「街は舞台」という、好評を博したコラムです。

たとえば大阪の金剛組という建設会社は世界最古の企業ですよ。創業587年。五層の天守閣ができるまでは五重の塔が日本を代表する高層建築で、そのはしりが四天王寺。大阪には最初に国家が作った寺院（官寺）と、それを造った会社が現存する。すごいことです。

また、あるいは、イギリスの国民的作家にして世界最大の劇作家シェイクスピアの名を知らない人はいないけど、そのシェイクスピアの芝居を日本で初演したのが大阪です。明治18年に道頓堀で『ベニスの商人』を初演した。これをイギリス人に言うと大阪が印象に残ります。シェイクスピアに詳しくなくてもいいから、そういうことを知っといてほしい。

大阪オリンピックは7月下旬の開催案で、オリンピックを大阪でやれば天神祭を世界に中継できるという思惑もあったらしい。ただ、日本三大祭と言うけど、地元で百万人が来るといっても、天神祭は海外で知られていません。なまじ大阪に人が多いからそうなるので、僻地なら効果的なパブリシテ

ィを必死になって考えます。天神さんは 1994 年にオーストラリアのブリスベンで天神祭の初の海外公演を執行して気を吐きましたが、これはよくやったと思います。

大阪天満宮の門前には、川端康成生誕地の碑が、相生楼という料亭のところにある。日本で最初のノーベル賞作家、川端康成の生まれたのが、この shrine の前、ここの祭りが天神祭ですとすることができます。川端康成のファンであろうがなかろうが、これは使わなければ損です。ところが大阪文学を語るときに川端康成の名を出す人は少ない。織田作は私も好きですが世界的作家ではない、魅力的な郷土作家です。もっと長生きしたらどうなったかわからないけれど、趣味を問わなければ川端康成の方がメジャーであることは言うまでもない。

大阪駅から市中を観光する「虹号」という市内観光バスがありました。私は調査のため 2 度乗りましたが、バスそのものはよかった。子供みたいに走って二階に乗れば眺めもいい。御堂筋の大きさも実感できる。

経費の節約をしているから解説がスピーカーで流れます。その日によって車の流れが違うので、運転手さんが見計らって流す。

御堂筋を南下し、最初に放送が入るのが、梅新のところ。「みなさん、左に見えます森が……」というけど森は見えない。主人公たちが心中した場所ですとか言っている森がない、飲み屋ばかり。10 何年前に録音したのをまだ入れているのでしょうか。「近松門左衛門の『曾根崎純情』の舞台です」。『曾根崎心中』なのに。単にミスなのか。

大江橋を渡ると観光客是水辺の景色を見ますが、放送は入らない。

淀屋橋を過ぎると、北御堂。大きな屋根の東洋的なデザインは目をひく。でも放送が入らない。北御堂は明治天皇の行在所でしたし、あるいは江戸時代に朝鮮通信使の宿所だった。韓国の人が乗っているかもしれないし、なんか伝えることはあると思います。

南御堂。バスの窓から見えるところに、決定的に観光客が喜ぶことが書いてある。芭蕉が死んだところなんですよ。俳句を好きでなくても芭蕉を知らない人はいない。ガイドが「芭蕉終焉の地と書いてあります」と言ってくればね。「旅に病んで夢は枯れ野を駆けめぐる」という名句を詠んだ可能性が高いところです。

本町を抜けて道頓堀。やっと「安井道頓っていう人が……」という放送が入る。最近では安井道頓ではなく成安道頓と説が変わってきているのですが、堀を掘ったという話だけ。堀なんてどこにでもあつた。道頓堀は歌舞伎や文楽など日本が誇る舞台芸術の聖地というか、近世日本のブロードウェイでした。近松の芝居も忠臣蔵も道頓堀で初演された。それを言わないと意味がない。多分これも辞書の一行目。いつ出来たという成り立ちだけ引いているのだろう。

新歌舞伎座が見えてくると、やっぱり見ます。かなり凝った建物ですから。今度なくなりますけれど、村野藤吾という有名な建築家が設計しました。ここはあまり歌舞伎はやらなくなりましたが、時代劇がよく上演されます。日本を代表する商業劇場と言っていい。ここも放送は入らない。

その頃は大阪球場の跡地があり、横の体育館ではちょうど相撲をやっている、幟がはためいていました。相撲をやっているときは風情がありますけど、浪速区は雑居ビルが多い。するとここに説明が入る。「このへんは難波といわれて、ネギ畑でした」、たしかに江戸時代初期はネギ畑で、難波のネギは有名だった。しかし都会の観光に来た人に、わざわざ言うことか。たぶん難波村の最初のいわれ、辞書の一行目を書いているからだと思います。

その後また放送が入る。「この辺は今東光の『こつまなんきん（勝間南瓜）』ゆかりの……」。初めて出てくる現代作家の名前が、近松の次にして今東光。最初に出すべき作家の名前ではないでしょう。

住吉区に入ると町並に風情が出てくる。灯籠に路面電車に客は喜ぶ。住吉は航海の神様、海の神様ですが、関東から来ているご婦人なんかに向けては、源氏物語はミーハー的なファンが多いから、明石の姫と光源氏が行き違いになるところがここだったと言え。あるいは与謝野晶子と鉄幹がデートした場所とか、印象に残るようなことを二つ三つ言ってもらおうと、ロコミで広がる。そういう工夫で大阪のイメージも上がる。

住吉大社はデザイン的にも文句なしに感心されました。関西の人からも、都心から離れているので知らなかったけど、住吉大社は実に綺麗なところだと言われました。

そこからバスは北東へ、阿倍野から四天王寺に入ります。1993、94年頃はホームレスがいたのを、歴史的に見ても福祉発祥の地だから今もホームレスがいるとか言って、私はごまかしました。

四天王寺は南側あるいは西側から入ると、中心伽藍がいかにも戦後復興という趣で、日本で一番古いお寺なのにサビがきいていない。でも北側の亀の池の方から見ると、古い境内だと実感できる。それから中心伽藍を見物して西門から出て行くコースがいい。もちろん説明をきちんとつけたら四天王寺のすごさはそれなりに理解してもらえますが、どこから見せるかでずいぶん印象が変わってきます。

そして、大阪城が予想以上に好評でした。

5. 大阪城を世界遺産に

石垣だけでもすごいし、町なかにあれだけの城郭公園があるのはエジンバラみたいと言われました。フランスのシャトーやドイツの古城みたいに田園や山中でなく、大都会のど真ん中のあれだけの城というのは、ありそうでない。名古屋城もだけど大阪城は特にそうです。天守閣は昭和の再建であっても城郭公園全体で見たら大遺跡です。

上町台地の四点セット。大阪城、難波宮、四天王寺、住吉大社…南へ延長して仁徳陵くらいまで。もっと早く運動を起こしておけば、ユネスコの世界遺産登録にもなれたでしょう。百舌鳥と古市の古墳群はまだ見込みがあります。周りを整備しないとイケないし。観光客をどう入れるかという問題もあります。私は羽曳野の市民大学で学長をしているので、ようやく盛り上がってきたなどは感じています。

虹号は大阪城の後、アクアライナーに乗る人乗らない人に分かれる。悪くないコースですが、解説ができていない。嘘を言ったらいけません、バカ正直にしょうもないことを言うな、いいところをなぜ言わないのか。もっと出すべき大阪ブランドがいっぱいあるのに、なぜコナモンやピリケンを先に出したがるのか。

私は中学高校時代よく角座に行きましたが、その頃は落語漫才なんでもあり、道頓堀の「くだおれ」や上野の「聚楽」といった食のデパートみたいに、お笑いのデパートがありがたかった。ところがそろそろ専門店がほしくなってきた。落語の良さが分かり、ひとつ落語をじっくり聞かず席がほしいと思ったら、大阪になくなっていった。五目飯のようになんでもありのごった煮が大阪的とかワンパターンで言っていたのはウソで、いいものを絞って見たい。東京でも大阪でもそうやってきます。それで繁昌亭が成功しました。値段はけっこう高いけれど。

大阪城の近く、谷四の山本能楽堂が「上方伝統芸能ナイト」を月二回やっています。能・狂言・文楽・上方舞・講談・落語…ハイライト部分ばかり四つ、オムニバス形式で見られる。メドレー集です。本来の文楽ファンからは邪道にうつるかもしれないけれども、日本人でも文楽の義太夫を四時間ぶっ続けで聞かされたら、しんどいものがある。一生に一度だけ大阪に来たかもしれない観光客に付き合わせてもね。本物のプロが、いいところだけ何十分かやる。英語の字幕もつき、食事も簡単なものが

つき、棧敷席もある。それで手っとり早く大阪文化の良さが分かったら、もっと深く大阪へ入って来てもらったらいい。

大阪城は良かった。その次どこがいいやろう。U S Jではあまりに印象が変わってしまう。やはり歴史的な大阪のイメージの延長で見たいというときに、近くに大槻能楽堂と山本能楽堂、二つの能楽堂がある。その一つがこういう一般向きのメニューを作ってくれた。

山本能楽堂の伝統芸能ナイトは100分ぐらい。桂春蝶とか若干の噺家が司会して、ミナミに残るお座敷遊びもメニューに入り、お客さんを舞台上げたりする。観光客からは「テレビで紹介されていない本当の大阪の文化なんです」と好評です。この路線を押し進めていくべきです。

実は京都の祇園コーナーは昔から毎日やっているのです、外国人観光客相手に。そこへ大阪から文楽の芸人さんがアルバイトに行っている。一生に一度日本に来た人には文楽まで京都の芸能に映ってしまう。大阪はなまじ本物を見せなあかんと文楽劇場で何時間という話になるけど、本格で重いコースと、気軽に行けるコースと、二種類のメニューがあった方がいい。そういう観光メニューもまだまだ大阪にはできていない。

6. 歌舞伎について

6月29日に今年も船乗り込みをやります。7月松竹座公演のイベントで、大正13年以来ほぼ半世紀途絶えていたのを昭和54年に復活したときは、東横堀も水がきたなくて、商工会議所が香水を撒きました。中之島の市役所の南側から乗船して、土佐堀川をさかのぼり、東横堀へ入って、道頓堀戎橋で上陸、出演する劇場の鍵をもらって舞台稽古に入る。そのパレードに両岸からファンが手を振って声援を送る。江戸時代からの有名な行事で明治大正時代にも盛んにやっていました、これを復活したことで夏の歌舞伎は定着した。船乗り込みを一度も経験したことがない歌舞伎俳優もいなくなってきた。やっぱり定番が大事です。

街の歳時記を組み込んで話題を膨らますと、歌舞伎ファンじゃなくても船乗り込みを見たい人が出てくる。橋下知事はどう見ても歌舞伎ファンに思えないけど、機嫌よく船に乗り手を振ってくれ、その日だけは平松市長と一緒に乗るから、新聞は面白げに「呉越同舟」と記事を書く。そういうことがまた話題になる。

今年は片岡仁左衛門の一座で、6月29日に小雨決行。私は代表世話人なので着物で挨拶を述べます。船に乗りたい人も多く、抽選に当たっても、「好きな役者の船に乗りたかった」とか文句が出る。そういうミーハー的なことも歌舞伎人気を支えています。

天神祭が戦後すぐに復活し、さらに船乗り込みが復活したということで、水都はまだ過去の幻ではないという宣伝にもなった。残念ながら市役所から西へは橋桁の関係で潜れません。朝日放送のあたりから出発したら、道頓堀に西から回って入ってくるコースもできる。今後の研究課題です。

7. 大阪について

大阪はアイデンティティの据え方が安易で、産業で栄えた時代のイメージを使いたがります。典型的な例が二つ。天下の台所と、東洋のマンチェスター。商都すなわち物流の中心地と、工業都市。でも今は工業の中心地ではない。製造業は名古屋が強い。商都といっても、現実に日本のビジネスシティは東京です。過去のキャッチフレーズを使おうとしても実態は違う。

特定の時代に栄えた産業をアイデンティティに据えてしまうと、産業構造が変わったときに都市イメージが混乱する。それよりは、文化と歴史をアイデンティティに据えておいた方が、つぶしがきく。

これはなくならないわけですから。

京都も内陸型の工業都市で、メーカーは多い。古い商業都市でもある。でも商都・工都と言いません。文化と歴史の街というイメージを押し売りして企業や商店のブランドイメージを上げようとする。長い目で見れば、この作戦の方がいい。商都や工都と安易に言ってしまうと街のイメージが限定される。今はもう東洋のマンチェスターと言う人はいません。マンチェスターには誰もあこがれませんから、さすがにそれは言わなくなりましたけれども、天下の台所に関してはまだ愛着を持っている。

ところが、江戸時代から天下の台所と言われたという俗説は嘘だと分かりました。「天下の台所」という言葉の初見は大正時代でした。大阪市史などに、幸田露伴の弟が書いた文章に出てくる。「台所」は、水野忠邦の天保の改革のとき、大阪町奉行の意見書に、大阪は色んなものが集まる台所、という言葉が一言出てくるけど、その言葉が流行ったわけでもない。

大正の中頃、第一次世界大戦で日本は戦場にならず景気が良かった。そのときに天下の台所という言葉に乗ってしまったのか、文化歴史を言わなくなっていた。そのツケが回ってきています。

明治時代、ラフカディオ・ハーンこと小泉八雲が神戸に住んで大阪を見物しています。その頃は仁徳天皇の都、古都という言葉を使っています。

しかし、日本の古都連盟に大阪は入っていない。鎌倉は入っています。鎌倉は古府ですよ、鎌倉幕府。でも入っている。

私が不思議に思うのは、なんとか時代という呼び方です。室町時代や鎌倉時代というのは 20 世紀にできた言葉で、東京帝国大学史学科が明治の終わり頃、20 世紀の初めにつけました。それまでは旧幕時代や徳川時代や、足利時代……いろんな言い方をしていたのを、行政府庁のあった町の名前をつけることにした。江戸幕府があったから江戸時代、平安京があったから平安時代。

問題は安土桃山時代ですよ。秀吉の時代、政治のキャピタルは大阪城だったのに。桃山って伏見のことです。秀吉の別邸、離れ座敷のあったところの地名を時代名につけたのはおかしい。まだ天下統一していないけど信長の安土時代については大目にみるとしても、信長秀吉の時代は安土大坂時代でないとおかしい。脇田修さんが安土大坂時代を唱え、本にも書いた。脇田さんは影響力があると思うのですが、それでも通らない。

7 世紀は、上町台地の長柄豊碕宮に 10 年近く都があった。難波と飛鳥を結ぶ日本最初の国道（官道）も通り、天王寺区の大道という町名はその名残りです。難波飛鳥時代、飛鳥難波時代と言ってもおかしくないのに、飛鳥時代・白鳳時代の呼び名に統一されてしまった。

大和時代と言われる 5 世紀の日本は大和と河内の連合政権で、だから大阪府下に巨大古墳が集中する。大和とは大和の国でなく日本という国をさすのかもしれないけれども、エリアでいうと大和河内時代とっておかしくない。当時は大和飛鳥と河内飛鳥にまたがる地域が日本の中核部地だったのに、大阪の名は全部外される。これは偶然ではなく。意図的ではないのか。

実は当時、滋賀県が東京へ陳情に行っているのです、安土時代とつけるように。今度の JR 湖西線の大津京という名も、学者は反対したのに、言っとかないと損だと判断したのか。強引につけた。

大阪は名を捨て実をとるとやってきたけど、名に実も伴ってくる。やはり古都大阪を言っておかないと。大阪は三度ほど都になりましたから。

古都大阪キャンペーンをやり、古都連盟にも入るべきという声を高めたいと思って、私は関西経済同友会に入会しました。

8. 追手門学院大学について

上町台地に拠点があほしいと思い、追手門学院に目をつけました。今は茨木に大学がありますが、発

祥の地は上町台地の追手門で、戦前は西の学習院と言われた名門です。OBに能役者や文楽の大夫もいます。

去年、『おさか』という狂言を追手門学院で初演しました。私の長い間の懸案でした。

これほどの大都市である大阪という地名が、いつ出来たか答えられる人が少ない。それで地名に因んだ狂言を作ってみたのです。

「おさか」は大阪の古名です。蓮如上人が明応年間、1496年に石山、今の大阪城の地にやってきたとき「おさか」という地名があった。それがいつしか「おおさか」と変わっていく。

いったい、どこの坂か。天満橋から上がっていくと、ドーンセンター、追手門学院大阪城スクエアの建物のほうへ登っていく、どうもあの坂のことらしい。

関東の男が伊勢に詣り、熊野経由で紀州から住吉を通って大坂市中に入ってくるという設定にしたのは、淀川の方から来たら先に石山の坂が見えてしまうからです。

南から入ってきて市中を歩くと、平地ばかり、「大坂というのに大きな坂はどこにもない」と旅の者は毒づく。すると地元の大阪人が現れ、「天王寺に七坂がある」と口縄や一心寺の坂を案内する。「どや、大阪にも坂はあるやないか」「箱根の坂に比べたら大きな坂と言うほどのものではないわ」と関東の旅の者がなおも文句を言うので、ケンカになりかかるところへ生玉の神主が登場する。

ここで、ばーんとタイムスリップして、坂の下まで波が押し寄せていた上代の大阪の風景となり、下界に難波八十島ができていく。はるかに時代は下り、蓮如上人がやってきて本願寺の前身をつくり、そのあとに大阪城ができ、てなことを生玉の神主が歴史の生き証人として語る。

結論はというと、これが私の言いたかったことで、地理的に大きな坂という意味じゃない。大化の改新という大事件のあったとき国際的な都をつくろうと海にのぞむ難波長柄豊碓宮に遷都した。あるいは戦国の乱世を鎮めるように蓮如上人が仏教王国を作り、秀吉が巨城を建てるというように、歴史の「大」きな節目となる「坂」こそ大坂なのじゃと神主は説くわけです。

関東から来た人間も納得し、大阪人と仲直りして、眼下に灯が見えるミナミへ飲みに行こかとなる。

スポンサーとなるにあたって追手門学院の条件は、「狂言の台詞に追手門という言葉を入れてほしい」。狂言ができた時代に追手門はまだなかったけど、まあそこは追手門と入れました。再演を重ねていくつもりです。

2002年頃から空堀の古い民家を改造して面白い店ができています。町並も戦争で焼けていません。松屋町の駅から急坂を上った、空堀商店街の北側にある「サロン・ド・ありす」。古い民家を畳で座る喫茶店に改造し、着付け教室も入って、月に一回若者が着物で集まる日があり、ここで着物に着替え松竹座まで歩いて歌舞伎を見に行くツアーをやったら、みな喜んだ。文楽劇場へも歩いて行ける、近くには扇雀鮎の昔の本社も残るし、「お染久松」の舞台になった瓦屋橋にも近い。

須磨にあった有栖川宮の別邸を大正時代に大阪へ移築して、戦争に耐えたという貴重な建物です。海岸の方にあった別荘なので、縁側がゆったりとリゾート風。そこへ建築工房やチョコレート屋が入ったり、クラフトのショップも入った。

9. 大阪発掘

有栖川の別邸という証拠が本当にあるのか。徳川十五代将軍慶喜がカメラマニアで、有栖川の別荘の写真撮っているの、同じ建物と分かったのです。そこに六波羅さんという建築家が乗り込み、レトロ風にリニューアルして若者の人気を集めている。

中崎町や天満、福島とかにも同じようなのが出て、クラフトショップやアトリエみたいな町家に

なる。中崎町なんか狭い路地で、火事が起こったら終わりです。再開発で路地を開発することは今は許されませんから。路地全体が一つの建物の中という解釈で造り直した法善寺横町の例がありますが、ああいう奥行きのある路地は女性が喜びますね。

あちこちJ Cに呼ばれていきますけど、男だけの町おこしは発想が単純です。たとえば天守閣の復興と言う。そんな出来たての天守閣より、昔は天守閣が見えたであろう路地を綺麗にしておしゃれな店を入れるとか。でかいものをバーンとつくるより風情、雰囲気が大事なのです。大阪の都心の脇にそういう町が出てきた、空堀は上町台地にあり、このへんから大阪の古都らしさが出てくると期待しています。

もうひとつ、私が売り出そうとしているのは、これも戦争で焼けていない、中寺町。歌舞伎の名優の墓が日本で一番密集しているところです。谷町筋の一つ西側の、南北の通り、そのもう一つ西側に高津神社。教科書に出てくるような名優の墓がずらりと並んでいます。鴈治郎や仁左衛門など大阪の役者はもちろん、三代目菊五郎や四代目歌右衛門の墓などもある。私は東京から歌舞伎ファンが来るたび案内しているのですが、みな感動します。京都は時代劇の映画俳優の墓が集まるゾーンをPRにしていますが、中寺町のお寺も風情有あり、道頓堀から歩いて行けないことはないし、大阪は歌舞伎の舞台になっている場所も多いから、芝居をやっているときにツアー用の地図も歌舞伎のプログラムに入れる。

建て替え中の東京の歌舞伎座の、年の前半での大きな興行、5月の団菊祭を去年から大阪でやっています。代替機能を大阪松竹座が持っているわけです。

10年前。当時の羽曳野市長が事務所まで乗り込んできて、ありきたりじゃない、付加価値の高い市民大学を作る、有料の授業で他市からも受講生が来るようにしたい、近く of 四天王寺仏教大学や大阪芸大や大阪大谷大学と組んで単位を取れるようにしたいと、野心的なプログラムを持ってきた。元NHK解説委員や朝日新聞編集委員といった名誉職の人はダメで、実際に身体を動かしてプロデュースする人をと、私に会いに来た意気に感じて引き受け、10年。古市古墳群の講座も盛り上がって来た。ユネスコの世界遺産にしたいくても地元が熱意がないとダメなのです。

大昔、上町台地は岬でした。周り三方海に囲まれ、東大阪まで海が入り込んでいたから、東側にも桑津とか港のような地名があります。そんな古代の大阪の地形のままなら、最後は岬の端っこに全員集まる火曜サスペンスの舞台になれたけど、今の大阪はあんまりサスペンスの舞台にならない。サスペンスの舞台になるところは、おしゃれなところなんです、金持ちの未亡人がいるとか、謎めいたセレブがいるとか。企業城下町みたいな単純な町ではない。

上町台地に住む有名人をピックアップしたら、有栖川有栖というミステリー作家がいた。彼は大阪が出てくるミステリーを書き、東京の出版社が京都に変えろと言うのをつつばねています。

震災でこの建物にもサウジアラビア大使館が避難してきているようです。経済規模では名古屋が大きいけど、首都の代替機能を名古屋にという声は出てこない。製造業だけではそうならない。ソフト産業・情報産業がいる。ドイツやスイスの大使館が移ってきているのは、神戸にドイツ人学校があるからでしょうか。山崎正和さんが言っていましたけど、宗教施設と学校を持ってくれば外国人は住みます。日本人は宗教に鈍いけど、イスラエル人、ユダヤ教徒なんかシナゴグの周り何十キロ以内に住む。兵庫県下に国際学校があるために大阪勤務が可能になる。そういうことも普段から情報を集めておく必要があります。

北ヤードも誰が審査員かしらないけど「うめきた」という愛称にセンスがない。あまりに即物的です。あと10年ぐらいで議論に上ってくるのは、大阪駅の南側の再開発。第一ビルから第二ビル。私

は古いCDやレコードを買いに行ったりと、なじみの場所ですけれども、こんなこと言うとミナミの人に怒られますが、文楽劇場を大阪駅前に移築すれば、日帰り九州から来られます。最初そういう案もあったのです。

キタに移築するとしたら、国立能楽堂、国立歌舞伎座もセットで入れてしまえないか。世界無形遺産の三大芸能を常打ちで見られる場所を大阪駅前を作る。真四角のビルじゃなく、観光客の喜ぶデザインにすべきです。それで本当に大阪の良さが分かったら、もっと大阪の中へ入ってきてもらう。

西尾市長のときに山崎正和さんが駅前ビルに劇場を入れろと言った。西尾市長はその気になりかけたらしいけど、そんなことしたら消防や避難とか大変ですと庁内から声が出て消えてしまった。今度の大阪駅にしてもデザインは面白いけど、エンタの部分はシネコンとスポーツジムだけ。何か歴史や文化を感じさせるものがほしい。

都市間競争の時代、分かりにくさはダメです。良いものをわかりやすく出す。京都はお高いっていう割には祇園で飲んだことがある人は多い。ステップというか、ここを通ったら入れるという入口は示しています、ところが大阪へ転勤に来て、何年間に江坂あたりに住んだけど、東京へ帰るので、いっぺん北新地を案内してくれと言われるのです。具体的にどう行ったらいいのか分からないと言う。天神祭でも百万人来るっていうけど、どこで見たらいいのか。なんか人が多いばかりで、よくわからないし。大川沿いのビルもいいところは占拠されている。不親切です。

西尾さんは小松左京さんの言うことはよく分からないと言っていました、脈絡なくしゃべりますからね。山崎正和さんの話は分かると言っていました。ちゃんと聞けば、きちっとしゃべりますから。兵庫県が山崎さんの意見を採り入れ西宮に芸術文化センターをつくったら、毎日すごい人が来ています。大阪市立美術館長としていい仕事をしてくれた蓑豊さんも今また兵庫県が使っています。大阪が見つけた逸材を息長く兵庫県が使っている。結局、大阪は梅棹忠夫や山崎正和といったソフト派の人材を使いこなせず、一過性のイベントが好きな町になってしまった。もっと根気よく場所にソフトが蓄積していくような方向に街づくりを切り替えないと、もったいない。

70年の万博の後、70年代後半に中之島に劇場ゾーンをつくる声があり、そのあと築城400年祭を機に二一世紀協会が文化首都を宣言したけど、この後にバブルがきて、バブルの勢いそのまま花博があり、USJが来て、次はオリンピック誘致と、またイベント派に戻ってしまった。

皮肉なことに、高度成長を生きてきた年寄り新しいもの好き。若い人は新しいものデラックスなものにうんざりして、レトロ好き、歴史が好きというより歴史を感じさせるものが好き。だから京都に押しかける。大阪にも戦争に焼けていない町並があり、もう一度付加価値をつければ人は来ています。大阪能楽会館のある中崎町なんか面白いレストランが増えて、安藤忠雄さんが食べに来ています。

われわれだってパリへ旅行に行ったら街角のレストランに入りたい。リーガロイヤルホテルのそば、福島路地に入ると、長屋を改造してユニークな店がいっぱい出ています。そこでフランス人よりもぜいたくなワインを日本人は飲んでいる。そういうのは外国人観光客にとっても面白いはずです。

95年の震災で西宮の家が全壊したので堂島の事務所で仮住まいしました。家族は東京の都営住宅に疎開し、久しぶりに独身気分を味わったというか毎晩北新地で飲んでいたわけですが、生活、買い物は不便でした。ちょっとしたものがない。女性たちも、かわいらしいものが買えない、芦屋で買えるようなものがないとこぼしていました。今は違います。都心に色んなマーケットがあり、これは人が住み始めたからでしょう。私の西天満の事務所が入るビルでは若い夫婦がおおぜい子育て中で、様変わりしたなあと思います。下町情緒だけでなく、おしゃれなものを売っているマーケットもふえてき

た。オールドタウン再生のチャンスが本当にやってきたと思います。
ご清聴ありがとうございました。